

本を自費出版



まつぎ つぎお
松木 次男さん（大埴甲）

に
こ
に
こ
ラ
イ
フ

129



夢はマイホーム



にしむら しようこ
西村 祥子さん（大埴甲）

昨年8月に「これで読める！龍馬の手紙」を自費出版しました。この本は坂本龍馬が書いた手紙の中から16通を選び、全文を読み仮名付きにしています。もともと歴史が好きで古文書に興味を持ち、独学で解読を始めて30年以上になります。龍馬は独特のくせ字で苦労しましたが、それも私にとっては魅力の一つで面白かったです。

「これで読める！龍馬の手紙」は近隣の書店で販売しています。また、市立図書館にも置いてありますので、ぜひ多くの皆さんに読んでいただけたらと思います。

「現在2作目を執筆中」と松木さん。今度は「女」にまつわる漢字を集めて本にするそうです。

夫と子ども2人の4人家族です。南国市に越してきて6、7年になります。子どもたちのころからなりたかった職業、保育士をしています。

趣味はホームベーカリーでパンを焼くこと。具材を変えて、いろいろと作っています。パン嫌いな長男も、焼きたての手作りパンなら食べてくれるので、とても楽しいです。

夢はマイホームを持つこと。5年以内には建てたいと思っています。夫が趣味でフットサルをしているので、子どもたちとボール遊びができるよう、庭付きの家を建てたいです。

「子育て中のお母さん、一緒に頑張りたい」と西村さん。働くお母さんたち、頑張ってください！

親子クイズ 467

Q だじゃれなぞなぞ！

- ①名前だけを聞くと、すごく怖い医者さんに思える職業は何でしょう？
- ②タコがマラソンを走ったら、何番になるでしょう？
- ③いつも力いっぱい詰め込む、どんぶりは何でしょう？
- ④1～10番まで駐車場があります。車を止められないのは何番でしょう？
- ⑤「しすせそ」という、うどんは何でしょう？
- ⑥10個のお菓子があります。お兄さんは何個食べたでしょう？
- ⑦床屋に拳銃をもった強盗が入りました。発砲は何回あったでしょう？

【第466回解答】

①	キ	チ	ン	
②	ア	ッ	プ	ル
③	シ	ッ	ク	ス
④	キ	ャ	ッ	ト
⑤	レ	ッ	ツ	ゴ
⑥	イ	ク	メ	ン
⑦	ジ	ャ	ン	ブ

答え：チックトゴメン

【第466回当選者】

濱田 政子（里改田）
中田 朋子（浜改田）
坂本 未妃（十 市）
黒木 美佳（前 浜）
高木 恵子（前 浜）

■応募締切／4月14日(木)必着

■あて先／〒783-8501

南国市大埴甲2301

南国市企画課「親子クイズ」係

■賞品／正解者の中から抽選で、5名に図書カード（1,000円）を贈呈

★応募総数／72通

★正解率／97%

親子クイズは、広報委員が毎月順番に考えています。

フライト・プラン障害者コーナー⑦ ～共生社会を目指して～

体や心に障害があると、日常生活を送る上で介助が必要となる場合があります。家族などの介助だけで支えていくことが難しい場合は、公的サービスにより生活を支援していく必要があります。障害がある方で、年齢が若いなどの理由で介護保険制度のサービスが適用とならない方は、障害福祉サービスとして、ヘルパー派遣による居宅介護や施設入所などのサービスを必要に応じて利用することができます。

第2次南国市障害者基本計画策定時に障害のある方に行ったアンケートでは、現在の介護者による介助が受けられなくなった場合、「家族・親戚」に頼むという意見や、「病院・施設」「公的サービス」を利用したいという意見が多くありました。しかし、中には「どうしたらいいかわからない」「誰にも頼めない」という回答の方もいました。周囲の方の理解・協力とともに、公的なサー

ビス利用方法の周知、相談体制の充実などを図り、支援が必要な方には適切な支援が行えるようにしていくことが必要だと考えられます。

質問項目「現在の介護者があなたを介助できなくなった場合、誰に介助を頼みますか？」	人数	割合
①同居の家族	498	27.4%
②同居でない家族・親戚	337	18.5%
③病院や施設に一時的に入所	333	18.3%
④公的サービス（ヘルパー派遣など）	245	13.5%
⑤どうしたらいいかわからない	134	7.4%
⑥誰かは決まっていないが、誰かに頼む	110	6.1%
⑦誰にも頼めない	84	4.6%
⑧近所の人や友人	36	2.0%
その他	40	2.2%

*「障害福祉に関するアンケート調査」集計結果

※お問い合わせは、福祉事務所社会係（☎880-6566）まで



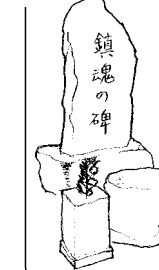
戦後にはハンセン病の治療方法が確立したにもかかわらず、国は隔離政策を「らい予防法」廃止の1996年まで続けました。納骨堂には、



自治会長Yさんは、戦後、19歳で入所し、60年近い歳月をここで過ごしました。Yさんから施設の歴史やハンセン病についてなどのお話を伺いました。



「風の舞」には、納骨堂の骨つぽに入りきらなかった骨を納めています。骨になってもここから出られなかった入所者の魂が、自由に飛んでいけるようにと願って、「風の舞」と名付けられました。



ハンセン病は、長い間遺伝病だという誤解もあったため、ハンセン病患者は法によって子どもを持つことを許されませんでした。

「大島青松園」を訪ねて
6 人権学習シリーズ

※お問い合わせは、人権啓発広報委員会（☎880-6569）まで